



リー・クアンユウ の時代

竹下秀邦 著

竹下秀邦 著

シンガポール——リー・クアンユウの時代

アジア経済研究所

シンガポール——リー・クアンユウの時代

筆者紹介

竹下 秀邦

一九三五年、

東京都生まれ。上智大学卒業後、アジア
経済研究所（一九六〇年～一九四年）勤務。
現在は常葉学園浜松大学国際経済学部教
授。

アジア現代史シリーズ 4

シンガポール——リー・クアンユウの時代

著者 竹下 秀邦

発行所 アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42 電話（3353）4231（代）

1995年3月31日発行© 無断転載を禁ず 印刷/製本 三陽社

ISBN 4-258-21004-8 C 3033

アジア現代史シリーズ 4

ISBN4-258-21004-8 C3033

はじめに

第1部 軍政期（一九四五年九月—四六年三月）……………	3
-----------------------------	---

——マラヤからの分離

第1章 軍政はじまる	4
------------	---

第2章 軍政の任務	9
-----------	---

1 日本関係	10
--------	----

2 難民・被災民の処理	12
-------------	----

第3章 軍政から民政へ	13
-------------	----

1 労働運動とマラヤ共産党	14
---------------	----

2 民政移管とマラヤ連合案	17
---------------	----

第2部 植民地時代……………	23
----------------	----

第1章 直轄植民地の立法・行政	24
-----------------	----

1 イギリスの新統治方式	24
--------------	----

2 シンガポールに立法議会（一九四八年三月）	34
------------------------	----

第2章

左翼活動の台頭と非常事態 36

1 労働争議、非常事態への前哨戦 36

2 非常事態宣言（一九四八年六月） 39

3 地下共産党 40

4 マラヤの武装闘争 42

5 マラヤ民主同盟から反英同盟へ 44

第3章

公然世界の政治活動 47

1 マリア・ヘルトフ暴動事件（一九五〇年十二月） 48

2 第二期立法議会（一九五一年） 50

3 新憲法で政党政治に展望 51

第4章

李光耀と人民行動党 53

1 李光耀の生い立ち 53

2 海峡華人とマラヤ人意識 55

3 同僚グループ成立の芽生え 57

4 人民行動党結成の前史 61

5 流血の一九五四年——人民行動党誕生への動き 70

6 人民行動党、結成される（一九五四年） 80

第5章

マーシャル政権と学生・労働運動（一九五五―五六年）

1 選挙戦・各党の消長（一九五五年） 85

2 マーシャル主席大臣 88

3 ホクリー暴動と労働運動（一九五五年） 89

4 共産主義者等の定義、その動向 92

5 共産党による革命事業の評価 95

6 マーシャル、独立交渉へ 97

7 マーシャル、独立挫折で辞任（一九五六年） 100

第6章 左翼運動の盛衰 103

1 人民行動党に左翼復活 103

2 林有福政府の一斉検挙と「十月革命」 104

3 第二回ムルデカ交渉（一九五七年） 108

4 左翼、盛り返す 110

5 罨にはまった左翼運動 113

第7章 人民行動党穏健派による党支配 115

1 人民行動党穏健派の復活と市議会選挙（一九五七年末） 115

2 李光耀、共産党全権代表と密会 117

3 ムルデカ交渉の仕上げ（一九五八年五月） 119

4 林有福の総選挙態勢かため（一九五九年） 120

第3部

自治国時代

5 人民行動党の選挙準備（一九五八―一九五九年）

121

6 選挙戦（一九五九年四月―五月）

126

第1章

シンガポール国の成立と人民行動党政権

130

第2章

王永元事件と二つの補欠選挙

137

1 市議会の廃止と王永元の離党

139

2 補欠選挙（一九六一年四月―六月）

141

第3章

「マレーシア連邦」問題発生

143

第4章

左派の反応、バリサン結成へ

149

1 左派、マレーシア計画阻止に動く

149

2 分裂の痛手と杜進才の発破

152

3 バリサン・ソシアリスの成立

155

第5章

人民行動党の反撃

157

第6章

マレーシア結成への手続き

162

1 対英交渉

162

第7章

2 「マレーシア白書」から国民投票へ
マレーシアをめぐる内外状況

172

1 バリサンの迷い、政府の躊躇

172

165

2 バリサン・ソシアリスに壊滅的な打撃 174

3 ブルネイ反乱（一九六二年十二月） 176

4 マレーシア結成に危機 177

第8章 「冷凍庫作戦」発動（一九六三年二月） 180

第9章 マレーシア結成への障害 184

1 インドネシア、フィリピンが反対 185

2 マラヤとの関係——経済交渉が難航 189

第10章 マレーシア結成直前のトラブル 196

第11章 自治国時代の経済 202

1 自治国時代以前の経済発展 202

2 人民行動党政権の経済開発 207

第4部 マレーシア時代…………… 211

第1章 マレーシア、加盟から分離へ 212

1 一九六三年州議会選挙 215

2 マラヤ総選挙（一九六四年四月） 222

3 変革の風——種族主義か非種族主義か 227

4 シンガポール暴動（一九六四年七、九月） 230

5 政治休戦（一九六四年九月） 235

6 政治休戦の崩壊

237

7 「マレーシア人のためのマレーシア」——マレーシア連帯会議

241

8 トウンク、シンガポール分離の決断

245

9 分離への最後の一押し——ホンリム補欠選挙

247

10 「無血」の分離

249

第2章

インドネシア経済断交とマレーシアでの経済機会

257

1 対決政策と中継貿易の断絶

258

2 対決による被害状況

261

3 対策、経済防衛局の設置

264

4 対決のその後

266

5 マレーシアでの経済機会

268

第3章

島内左翼との戦い

273

1 南洋大学事件（一九六三年九月）

274

2 バリサン系労組、その他諸団体への「破壊作戦」（一九六三年十月）

277

3 バリサンの分裂（一九六四年四月～六五年三月）

281

第5部 共和国時代……

第1章

シンガポール共和国の独立（一九六〇年代後半）

286

1 マレーシアからの離脱・独立

286

285

第2章

- 2 共和国の種族問題 291
- 3 対外関係の基本 293
- 4 インドネシアとの国交樹立と通商再開 296
- 5 マレーシアとの緊張緩和・関係調整 301
- 経済も分離・独立へ 303

第3章

- 1 シンガポール・ドルの誕生 303
- 2 新通貨、英ポンドからも独立 307
- 3 輸入代替から輸出指向型工業化へ 310
- 4 地場華人経済と社会主義政権 313
- 長期政権の確立 320

329

第4章

- 1 バリサン、国会ボイコットで自滅 320
- 2 人民行動党、国会完全制覇（一九六八年四月） 329
- 3 イギリス軍のスエズ以東撤退 336
- 4 「一九七一年全面撤退」と雇用確保の戦い 338
- 5 国防整備計画 341
- 6 英連邦軍の残留 342
- 一九七〇年代の人民行動党政府 345
- 1 党外人材の発掘と養成 347

第5章

- 2 選挙による人材更新 351
- 野党・反政府勢力の動き（一九七〇年代） 356
- 1 一九七〇年補欠選挙 356
- 2 バリサンの転向 358
- 3 一九七二年総選挙とその後始末 360
- 4 学生運動の復活・短命挫折 362
- 5 非合法反政府活動 365
- 6 一九七六年総選挙 367
- 7 共産主義統一戦線とマレーシア（一九七七年） 369
- 8 一九八〇年総選挙へ 374

第6章

- メディア規制（一九七〇年代） 377

第7章

- 教育制度改革 386

第8章

- 一九七〇年代の経済発展 393

第9章

- 外資と公企業 401

第6部 政権交替の一九八〇年代……………

第1章

- 第二世代指導層の形成（一九八〇年代） 412

- 1 第二世代指導層の登場と人材発掘の制度化 412

- 2 国会完全支配破れる（一九八一年十月） 415

3 一九八四年総選挙

419

4 「敗北」の原因

422

第2章

第三世代のデビュー

425

1 首相子息に脚光

425

2 子息李顕龍の初舞台（一九八五～八六年）

427

第3章

政権委譲で完全防備体制の構築

432

1 ミスター野党の国会追放（一九八六年）

433

2 新たなメディア規制（一九八六年五～八月）

436

3 法務業法の改正（一九八六年五～九月）

440

4 選挙制度の手直し（一九八七～八八年）

442

5 大統領制度の変更——政権委譲への制度的仕上げ

446

第4章

政権委譲への戦い

451

1 宗教と政治

451

2 一九八八年総選挙

456

3 呉作棟チームで我慢

460

4 首相李光耀の最後の事業（一九八九年）

464

第5章

一九八〇年代の経済

470

1 経常収支の黒字化

471

第7部 一九九〇年代の展望

- 2 中継貿易の再興 473
3 民営化 476

第1章 李光耀の首相退任

484

第2章 一九九一年総選挙と吳作棟の試練

487

第3章 将来の基本的問題

493

1 人口問題

493

2 種族問題

495

3 多民族主義の今後

498

4 垣根の維持

501

第4章 国家理念の形成

503

第8部 血債問題と対日国交

509

第1章 大量虐殺事件とその規模

513

第2章 華人社会による事後調査

510

第3章 人骨発見、血債問題の発生

517

第4章 対日要求、血債問題

519

第5章 マレーシア加盟と対決政策の影響

522

第6章 民間要求と政府間交渉の落差

524

第7章 血債妄結で対日関係拡大へ（一九六七年九月）

527

資料

531

注

570

略年表

573

索引

594

あとがき

595

（本文中の表の出所）

経済統計—*Yearbook of Statistics*

その他—現地紙等より作成。